

神戸大学大学院海事科学研究科国際交流基金支援事業 実施報告書

(2. 学生の大学間国際交流及び国内交流に対する支援事業)

令和 5年 10月 26日

神戸大学大学院海事科学研究科長 殿

所属・学年 グローバル輸送科学科ロジスティクスコース 4年生

学籍番号 2077084W

氏 名 田淵瑚華

学生の大学間国際交流及び国内交流に対する支援事業における成果等について、下記のとおり報告します。

行 先	大学名等：サタクンタ応用科学大学
プログラム名等	IAMU AGA23 カンファレンス
実施期間	令和 5年 10月 17日 ～ 令和 5年 10月 22日
具体的な成果及び今後期待出来ること等  (くわしく記載してください。枠内に記載できない場合は、別紙に記載の上、提出してください。)	<p><b>【1日目 10/17】</b>                  ・ウェルカムディナー                  グランドマリナコンgressセンターのレストランで、58の海事大学と日本財団で構成される船員教育の国際的なネットワーク機関であるIAMU（国際海事大学連合）に所属する世界中の海事学生や教授、関係者が集まって交流した。フィンランドの伝統的な食事を嗜みながら、自身の専攻や国の海上輸送や船員、船を含め海事に関する状況、問題点などを話し合った。海外の方々の、海事に対する考え方を含む異なる価値観に触れることで視野と知識を広げた。</p> <p><b>【2日目 10/18】</b>                  ・オープニングセレモニー                  グランドマリナコンgressセンターにてIAMU AGA23カンファレンスの開会式が行われた。IAMU会長をはじめとした多くの関係者の方々のお話を伺った。IAMUは1999年11月、世界5大陸を代表する7つの大学によって設立されて以降、68の大学・アカデミー・学部が加盟していること、AGA（IAMU年次総会）が世界の海事教育・訓練機関の情報交換・政策の承認・良好な関係の構築と協力関係の促進を図る場であること、総会・学長フォーラム・プロジェクト発表・IAMU会議（IAMUC）から構成されていること、私が参加したIAMU学生プログラム（IAMUS）は開催大学と共催することができることを学んだ。</p> <p><b>【3日目 10/19】</b>                  ・キャンパスツアー                  samk 大学（サタクンタ応用科学大学）のキャンパスを巡回し、見学した。samk 大学には、国際ビジネス、ロジスティクス、海事管理に重点を置くロジスティクス&amp;海事技術学部があり、海事管理や学</p>

術的なロジスティクスの新興分野を担当していることを知った。この学部はナミビアにおける海事教育の発展のための共同プロジェクトなどに参加しているという。中でも特徴的な施設は3つあった。1つ目は、10種類の船の安全性プログラムを持つナビゲーションシミュレータであった。これは、フィンランドで唯一360度見渡せ、ダイナミックな測位ができるコマンドブリッジ・4つすべてにダイナミックポジショニング機能がついた120度コマンドブリッジ・9つのナビゲーションシミュレーターステーションを持つというシミュレータであった。レーダーの使用、電子海図システムの使用、ブリッジワークの練習に役立つことを学んだ。2つ目は、機関室シミュレーターセットであった。全部で5種類の船型があり、エンジン・コントロール・ルーム (ECR)、エンジン・ルーム、12台の独立したワークステーションから構成されていた。3つ目は、同利用ラボ (ISTLAB) であった。新しい海上アプリケーションをテストするための共同実験室で、遠隔操縦がフォーワーディング・ラボ開発のユースケースとなっていることを学んだ。他にも大規模な船の機関やそれを工事・作業する施設、船員が身体を鍛えるためのプール、エンジンなどの機械設計をするためのコンピューターや資料が整った部屋等があった。

・伝統的な夕食とサウナ体験

フィンランドの伝統的な家の中で、サーモンスープやミートボール、ミルクがゆをライ麦生地に乗せて焼いたカレリアパイなど伝統的なものを食べた。また、併設の施設で本場フィンランドのロウリュウサウナを体験した。ロウリュウサウナとは、熱した石に水をかけ、一気に蒸気を発生させることで室内の湿度や温度を上げ、体感温度を高めるサウナである。身体が温まったら数十メートル先の海にダイブした。

【4日目 10/19】

・IAMUC オープニングセレモニー

レシャ・デミデンコ サタクンタ応用科学大学、エルヴィイラ・トゥオミ サタクンタ応用科学大学の議長 2人からそれぞれの専攻内容やその国の海事の状況などを学んだ。また、カンファレンスの進め方なども話された。

・IAMUS カンファレンス

samk 大学の講堂にて全学生がプレゼンテーション、ディスカッションを行った。内容は、「船員教育 (MET) 問題」「Wind Power」「MASS オペレーター教育における新しい規範の提案」、「OCCS に関する熱経済分析」、「EEDI フレームワークに基づく LNG デュアル燃料船の OCCS に関する熱経済分析」、「LNG 燃料船のためのゼロエネルギー増加船内炭素回収システム」、「海洋シミュレータにおける物理ベースモデルによる海洋シーンの可視化とシミュレーション」、「グローバルな海事プロフェッショナルのための国際体験の実施と文化意識の向上」、「環境に配慮した持続可能な複合材船用品製造技術」、「自律型船舶のコード導入への道を開く：航行安全のための規制枠組みの批判的レビュー」、「ルテニウム色素とインドリン色素を用いた色素増感太陽電池におけるバンドベンディングメカニ

	<p>ズム]、「マイルを走り、ラインを走る。船員は幸せになりながら、その両方をこなすことができるのか?」、「バトゥーミ国立海事アカデミーにおける気候変動意識と環境意識の分析」等であった。最先端の研究について、予算や期間など実用性を問う議論を行き、各国の海事の状況を知ること、世界の海事の共通点や相違点を理解することができ、多くの新たな知見を得ることができた。</p> <p><b>【5日目 10/20】</b></p> <p>・ハーバーツアー</p> <p>フィンランドラウマの港をバスで巡回し、見学した。コンテナや船、ガントリークレーンなどに荷役やオペレーションの様子を学んだ。印象深かったのは、廃船や金属くずを多く目にしたことである。また、ラウマから輸出されている多くのバルクは、丸太をはじめとする木材であることが分かった。</p> <p>・ラウマツアー</p> <p>世界遺産のラウマ旧市街地を見学した。フィンランドの西岸に位置する小さな港町のラウマはフィンランドで最も古い港の一つである。フランシスコ会修道院の内側の聖十字架教会と広場の前のタウン・ホールは石造りだが、それ以外はほとんどカラフルな木造建築で600軒ほどが立ち並んでいることが分かった。また、1684年の大火事でほとんどが焼失したが、18世紀～19世紀に中世の古地図を元に町は再建された。ラウマ旧市街でもっとも狭い通りとされるキトゥクランも訪ねた。</p> <p><b>【6日目 10/21】</b></p> <p>・IAMUの関係者との対談・食事</p> <p>IAMU 常務理事の中澤さん、副理事長の森さんをはじめとした、IAMUに所属する事務局の方々と対談・食事をした。IAMU 学生カンファレンス実施後の報告や他国の学生と話した内容などを共有し、海事について議論を行った。また、先方からはIAMUに所属することとなったきっかけや現在の海事やIAMUの状況や問題点、今後の課題、魅力など、を伺い、多くのことを学んだ。</p>
指導教員の所見	<p>田淵学生と中田学生が積極的に AGA の Opening Ceremony ・ IAMUS ・ Campus Tour ・ Harbor/Rauma Tour ・ IAMU Debriefing に参加し、研究発表も無事に実施できた。他学生と色んなコミュニケーションができ、ネットワーキングも成功できた。良い神戸大学の代表になった。</p> <p style="text-align: right;">指導教員名 <u>ルックン 文子</u></p>

※参考になる資料があれば添付してください。実施報告書については、大学の HP で公表される場合があります。